

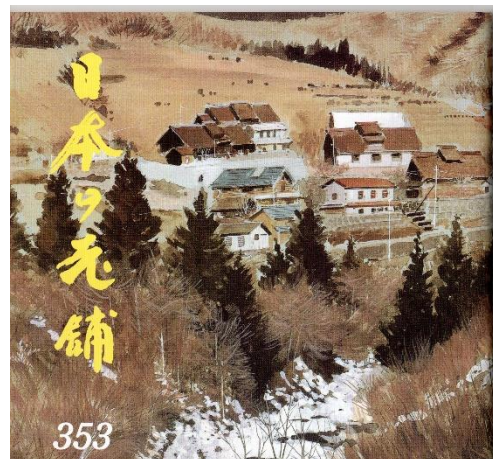
「日本の老舗」第 353 号（隔月発刊）

発行：株式会社白川書院 「日本老舗百店会」事務局

令和 6 年(2024)年 2 月 15 日発行

「日本老舗百店会」は三代以上または百年以上続き世間の評判も良く、今も盛業中の老舗の集いで、隔月誌「日本の老舗」を発行しています。本誌には老舗の逸品の紹介や店主のリレーエッセイや紀行、歴史、自然、伝統産業、花街などの連載が盛り込まれています。

今回は連載の一つ〈日本の宿今昔〉にて紹介されています。



白川書院の「日本の老舗」第 353 号に〈日本の宿今昔〉
④7にて奈良・日吉館が紹介されました。

奈良・日吉館：奈良市登大路町に存在した旅館。大正 2 年(1913)創業、平成 7 年(1995)まで営業。

日吉館が開業したのは、大正 2 年(1913)。創業者は田村松太郎と妻のツネオ夫妻で、当時の奈良の実業家、木本家の山守だった。木本家は、登大路に面した持ち家の一軒家を増築し松太郎への報酬として貸与した。

松太郎の息子の妻きよのが旅館を引き継いだ。奈良の古寺や古仏を訪ねる文化人や学生が多く利用した。夕食にはふんだんの肉や野菜の入ったすき焼きが出たが就寝は相部屋で雑魚寝、暖房は丸火鉢か炬燵(こたつ)であり格安で提供していた。

宿泊客は朝早くからきよのに起こされ「奈良に勉強に来たのでしょう」と布団を片付けられて叱責されたという。向学心や探求心を持つ宿泊者を好み独特の人柄が宿泊者に愛された。又同じように古美術や古寺に関心を持つ宿泊客相互の交流があり「奈良古美術大学の学生寮」といわれ支持を集めた

大正 11 年(1921)には会津八一が宿を利用しはじめ、昭和 5 年(1930)に日吉館の看板を揮毫した。

昭和 57 年にきよのが営業を退いた後、有志によって会員制で営業は続いたが、平成 7 年に廃業した。日吉館の建物は平成 21 年に取り壊された。



会津八一揮毫の看板が掲げられていたかつての日吉館 昭和 52 年頃
写真提供：福川美佐男氏



会津八一揮毫の看板

掲載の写真は
奈良県立図書情報館今昔 WEB より